

平成25年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

研究種目：一般研究

研究代表者：北川 博史（岡山大学大学院社会文化科学研究科・教授）

研究分担者：なし

研究題目（和文）：

乾燥地都市における経済開発とその特性－北米地域を事例として－

研究概要（和文）：

本年度は、米国アリゾナ州に調査対象を絞り、9月に詳細な現地調査を行い、多くの知見が得られた。その概要は次の通りである。

1. フェニックス都市圏の経済開発の経緯や課題に関する資料を、フェニックス市立中央図書館などで収集した。それによりフェニックス大都市圏とツーソン大都市圏では、乾燥地域でありながらも、近年、急速な人口増加が著しい地域であることが明らかとなった。とくに、Pinal 郡では2000～2006年間に66.9%という非常に高い人口増加率を示している。それとともに、これらの大都市圏では経済成長の著しい地域であることも判明した。
2. こうした成長著しい地域においては、新しい産業集積が進行しており、これを背景として経済の発展、人口の増加、都市化の進展がもたらされていることが理解された。
3. なかでも、エレクトロニクスおよびICT産業の集積が顕著であり、これらの部門が乾燥地都市の経済発展を主導していることがわかった。
4. そうしたエレクトロニクスおよびICT産業の成長をともなう経済開発を可能にしたのは、安価な労働力と広大な工業用地、西部の大消費地の近接性、豊富な電力供給であるが、精密機械製造に適した乾燥した気候も優位な条件となった。

以上により、アリゾナ州にみられるように、乾燥地といえども産業発展の可能性がまったくないというわけではないことが認められた。良質な労働力や産業政策やインフラなどの条件が整備されていることが前提とはなるものの、乾燥地における新たな産業立地が模索されることが期待されるといえよう。